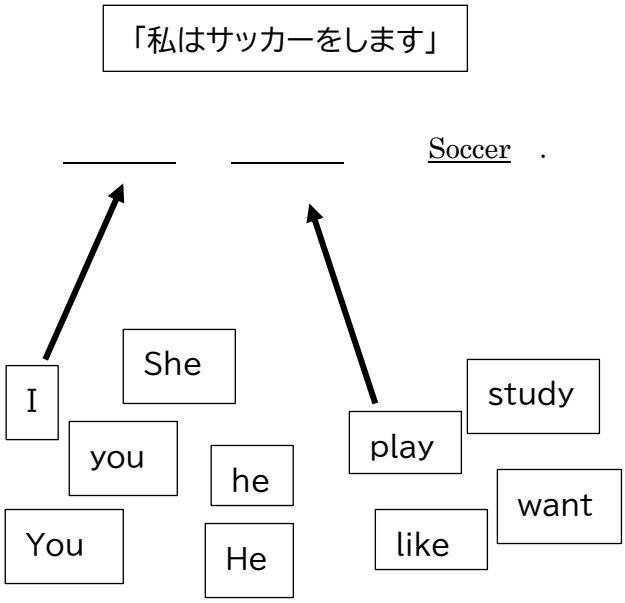
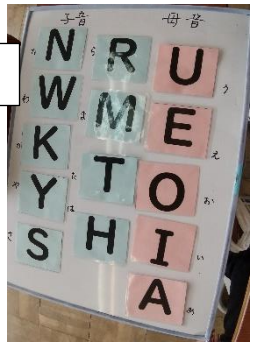
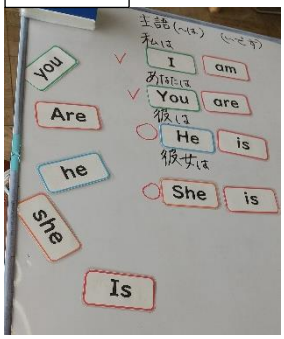
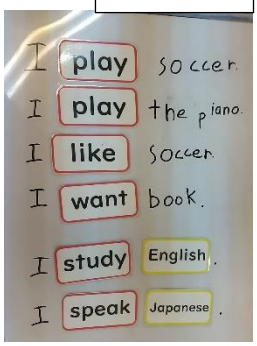
自作教具の活用事例

<table>
<tr><td>【作品名】
ローマ字カード　英単語カード</td><td>【学校名】
日立市立台原中学校</td></tr>
<tr><td>【活用できる領域・教科等】
英語</td><td>【制作者名】
石塚　理恵</td></tr>
<tr><td>【制作の意図】
入学時、アルファベットの学習が曖昧な状態だった。そのため、カードを用いて母音、子音の組み合わせることを理解できるようにすることや、主語、be 動詞、一般動詞の単語カードを操作しながら英作文の基礎的な内容の定着が図れるようにした。</td><td>【使用方法】
ホワイトボードに英単語を何枚か並べておき、日本語の問題を出題する。例えば「私はサッカーをします」では、主語カードから「I」、動詞カードから「play」を選択し、サッカーは書けるので生徒本人が書く。否定文、疑問文の場合も同様</td></tr>
<tr><td>【制作上の工夫】
アルファベットカードは表に大文字、裏に小文字を記入し、視覚的に印象に残るようにするため、大きめのカードにした。英単語カードは表に英単語、裏に意味を記入し、発音練習など様々な場面で活用できるようにしたり、主語、動詞、be 動詞、一般動詞によって縁取りの色を変えたりして、確実に理解できるようにした。また、ラミネートをすることで、耐久性を高めた。</td><td>【見取り図】
 
</td></tr>
<tr><td>【写真】
アルファベット
 

英単語
 

応用発展
 
</td><td>【使用効果と応用発展】
最初、アルファベットは大文字と小文字に戸惑いがあり、進み具合が遅かったが、慣れてくるとM（ま）H（は）など自分で書けるようになり、スムーズにと覚えられるようになった。英単語カードを用いて、英文を作る場面では、どこからカードを選ぶかが分かりやすく”書く”作業がない分、考えることに集中できる。疑問文での大文字カードを選択するのも徐々にできるようになった。否定文では、どこに not のカードを入れるか分かりやすくスムーズに作業を進めていた。応用発展として、I 、He、 She、 You など、カードを使わなくても書けるようになったら、自力で書くように促すことで、書く力も身についた。</td></tr>
<tr><td>【材料・材質・部品等】
・単語を印刷した用紙
・ラミネートシート</td><td></td></tr>
</table>